

フルドットソーラー式メッセージボード

CMFシリーズ 文字編集・書き込み方法



1.準備（必要な物）

- メッセージボード、編集ソフト
- パソコン（windows2000、XP、RS-232Cシリアルポート付）
- RS-232Cケーブル（ストレート接続）



両側9ピンメス



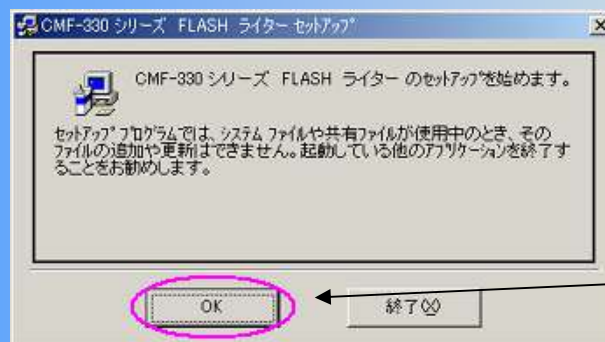
9ピンオス（パソコン側）

•USB→ RS-232C 変換ケーブル

※パソコンにRS-232Cのポートが無い場合に使用します。

2.ソフトのインストール 【その1】

- インストール用のCD-ROMをパソコンにセットします。
- CD-ROMの内容を開くと、「編集ソフト」と「書き込みソフト」の2つのフォルダがあります。それぞれのフォルダの中にある「setup.exe」をクリックして起動させるとインストールが始まります。



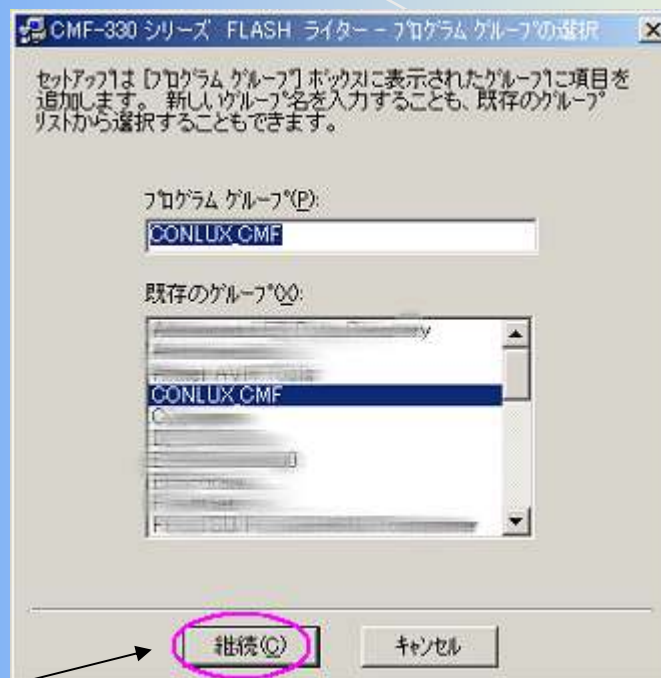
OKを押します。

- インストール先のディレクトリ（フォルダ）、プログラムグループ名等はそのまま変更せずインストールしてください。



ここのボタンを押します。（ディレクトリは変更しないで下さい）

2.ソフトのインストール 【その2】



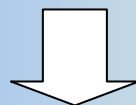
接続ボタンを押します（プログラムグループは変更しないで下さい。）

- 「編集ソフト」と「書込みソフト」両方をインストールしてください。

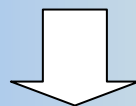
3.文字編集、表示の流れ

● 文字編集の流れ

① 編集ソフトにて、表示したい文字を作成する。



② 書き込みデータの作成



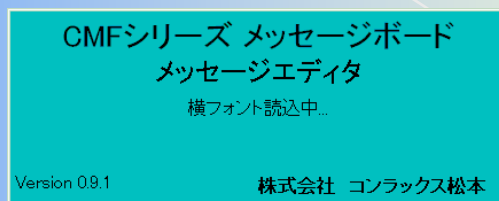
③ 書き込みソフトにて、メッセージボードに書き込み

● メッセージ編集についての注意

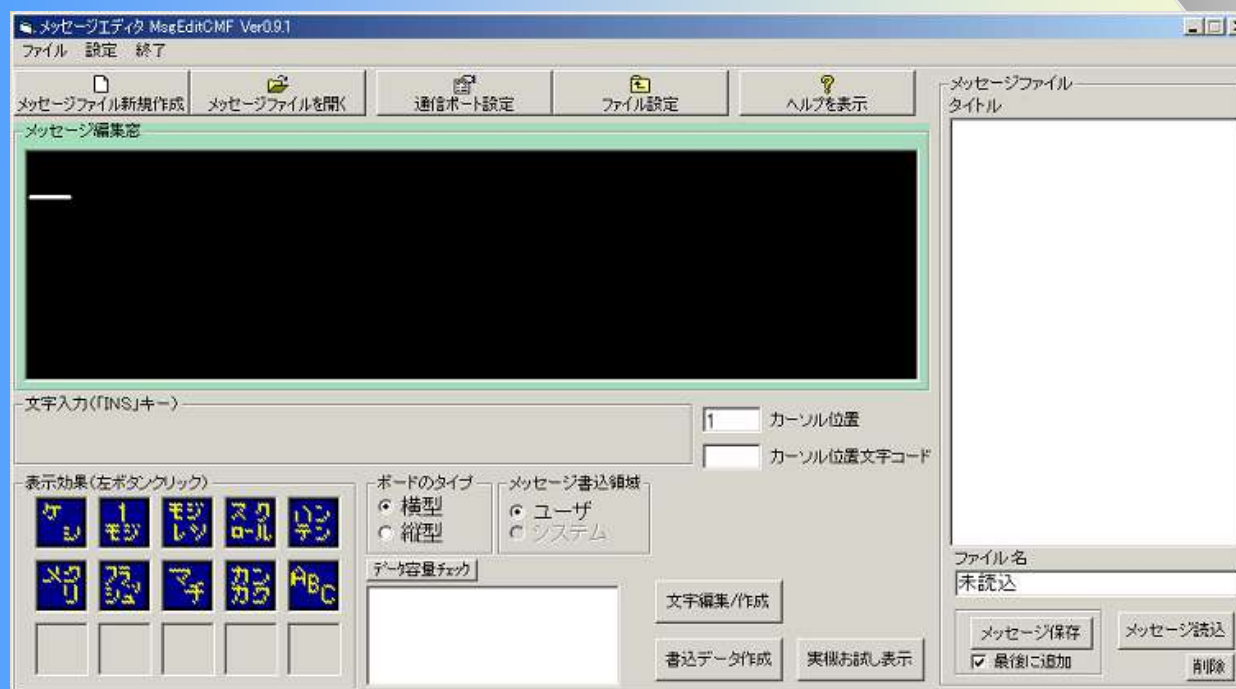
1. この編集ソフトは、CMF-330の1-ザ-領域『U1～』のメッセージを編集して書き込みするソフトです。
2. 編集において、1度に書き込める文字数は、最大『15文字』までです。
3. 書き込み中、電源が切れると、メッセージボードが起動しなくなる事があります。ご注意ください。
4. メッセージが正常に動作しなくなった場合は、オリジナルのメッセージを書き込みしてください。

4.編集ソフトの起動

- 『CMF-330シリーズ メッセージ エディター』 で編集ソフトを起動します。

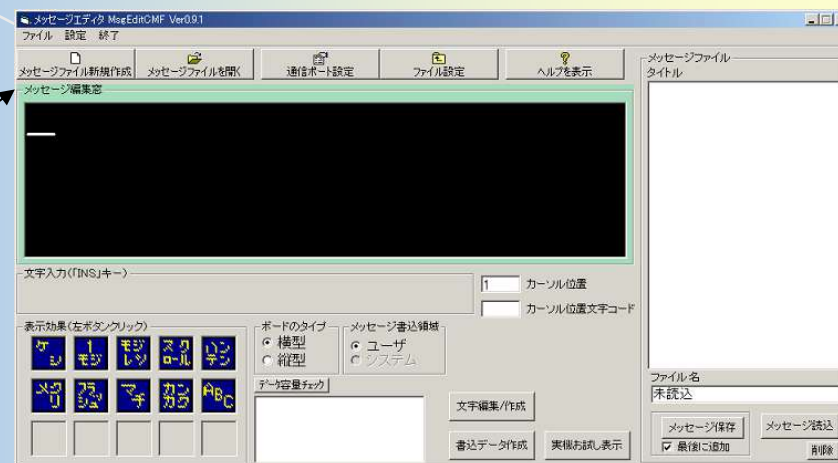


- 編集ソフトが起動した画面

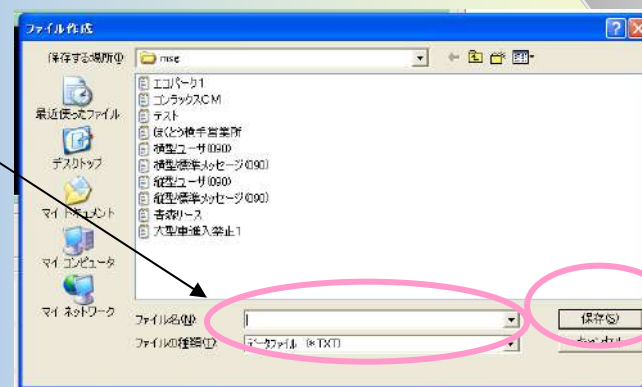


5-1.文字編集例（メッセージファイル新規作成）

- 『メッセージ ファイル新規作成』のボタンを押し新規ファイルを作成します。



- ファイル名を入力し、保存する。



- ここで作成したファイルが、メッセージボードに書き込む際のファイルになります。リザルメッセージや、前に作成したメッセージに追加して、書き込む場合は、『メッセージ ファイルを開く』のボタンを押し、ファイルを開いてから、文字編集を行ってください。

5-2.文字編集例（スクロール表示12文字以内 その1）

- はじめに パソコンとメッセージボードを接続し、電源を入れて文字編集を行ってください。『お試し表示』を行いながら進めます。

- 実際に文字を作成しよう！ 例：『災害復旧工事中』 7文字

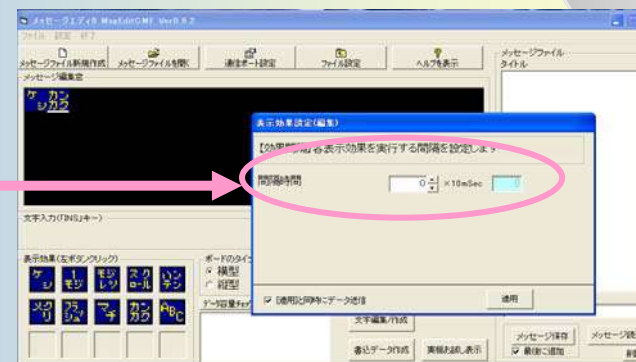
- ①  を入れる

消去開始文字位置 『1』文字目から
消去終了始位置 『3』文字目まで



- ②  を入れる

間隔時間 『0』×10mSec



は画面をクリアにする為に入れます。



は、次の動作を行なう、間隔時間を設定します。

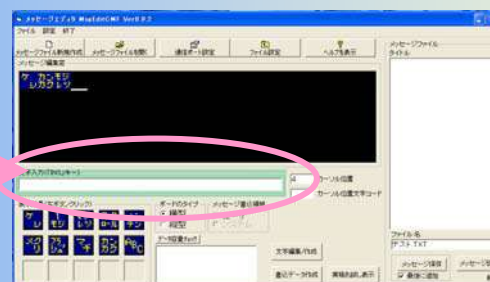
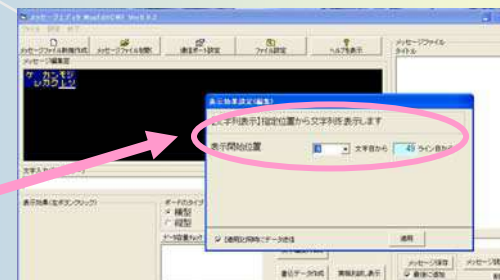
5-3.文字編集例（スクロール表示12文字以内 その2）

- 実際に文字を作成しよう！ 例：『災害復旧工事中』 7文字

③  を入れ、表示したい文字を入力する。

表示開始位置 『4』文字目から

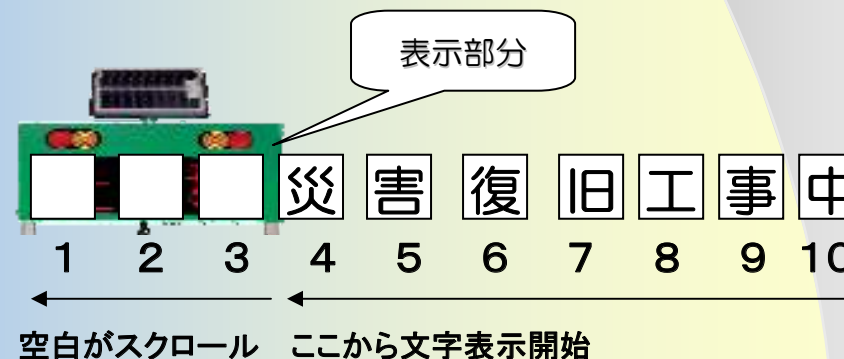
ここに『災害復旧工事中』と
入力し、Enterで確定



表示開始位置 4文字目？なぜ？

向かって右端から文字が出てくるように設定しているということです。

CMF列-ズは同時に3文字しか表示できません。そこで、表示開始位置を4文字目にすると3文字は空白になります。すなわち、3文字の空白をスクロールさせて4文字目から入力した文字を表示します。



5-4.文字編集例（スクロール表示1 2文字以内 その3）

- 実際に文字を作成しよう！ 例：『災害復旧工事中』 7文字

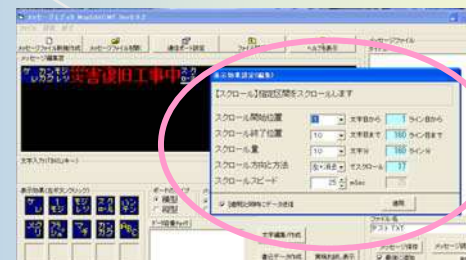
④ を入れ、各種設定をする。

【スクロール設定】

- ・開始位置 スクロールの開始位置を指定します。
- ・終了位置 スクロールの終了位置を指定します。
- ・量 何文字分スクロールさせるか指定します。
- ・方向 スクロールする方向等を指定します。
- ・スピード スクロールする早さを指定します。

【今回の設定】

- ・開始位置 **1文字目**
- ・終了位置 **10文字目**
- ・量 **10文字分**
- ・方向 **左+消去**
- ・スピード **25mSec**



表示効果設定(編集)

【スクロール】指定区間をスクロールします

スクロール開始位置	1	文字目から	1	ライン目から
スクロール終了位置	10	文字目まで	160	ライン目まで
スクロール量	10	文字分	160	ライン分
スクロール方向と方法	左+消去	でスクロール	17	
スクロールスピード	25	mSec	25	

☒ [適用]と同時にデータ送信

適用

5-5.文字編集例（スクロール表示12文字以内 その4）

● 設定の解説

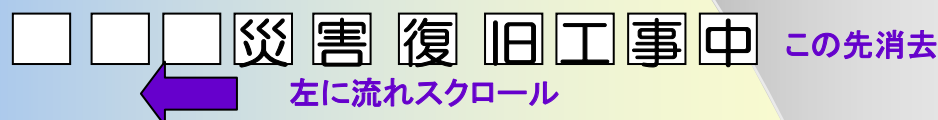
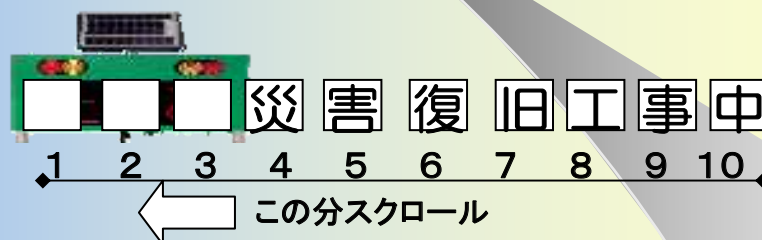
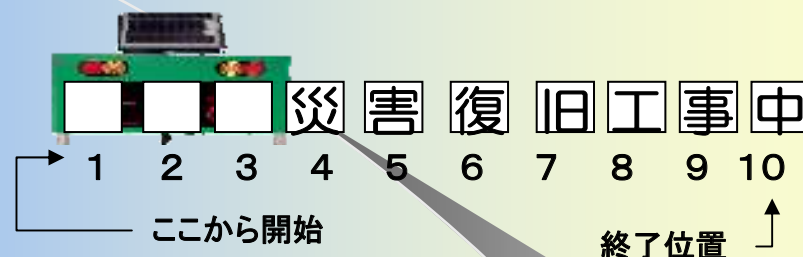
- ・開始位置 **（設定 1文字目）**
スクロールの開始位置を設定します。

- ・終了位置 **（設定 10文字目）**
スクロールの終了位置を指定します。

- ・量 **（設定 10文字分）**
何文字分スクロールさせるか指定します。

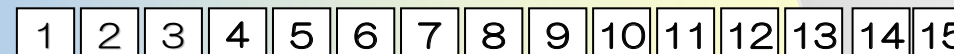
- ・方向 **（設定 左+消去）**
スクロールする方向等を指定します。

- ・スピード **（設定 25mSec）**
数字を増やすと遅くなり、減らすと早くなります。

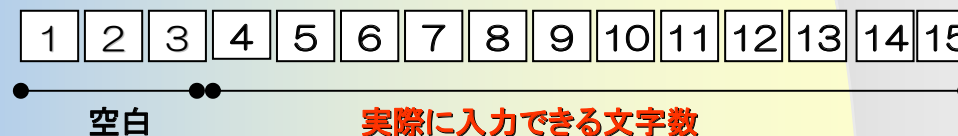


● 一度に入力できる文字数

- ・最初の文字から表示する場合 **15文字**



- ・右端から文字が出てくるよう表示する場合 **12文字**



実際に入力できる文字数
15文字-3文字=12文字

5-6.文字編集例（スクロール表示12文字以上 その1）

- はじめに パソコンとメッセージボードを接続し、電源を入れて文字編集を行ってください。『お試し表示』を行いながら進めます。

- 実際に文字を作成しよう！ 例：『ソーラー式メッセージボードレンタルします』 20文字

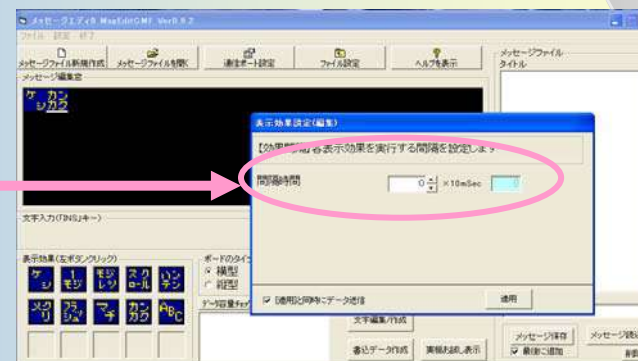
①  を入れる

消去開始文字位置 『1』文字目から
消去終了始位置 『3』文字目まで



②  を入れる

間隔時間 『0』×10mSec



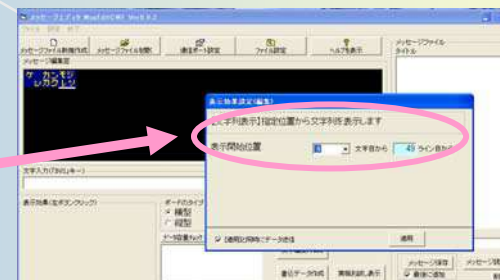
スクロール表示をする場合、必ず入れよう！

5-7.文字編集例（スクロール表示12文字以上 その2）

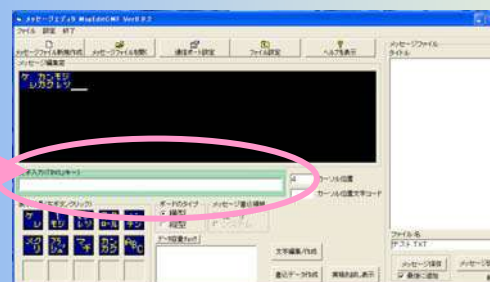
- 実際に文字を作成しよう！ 例：『ソーラー式メッセージボードレンタルします』 20文字

- ③  を入れ、表示したい文字を入力する。

表示開始位置 『4』文字目から

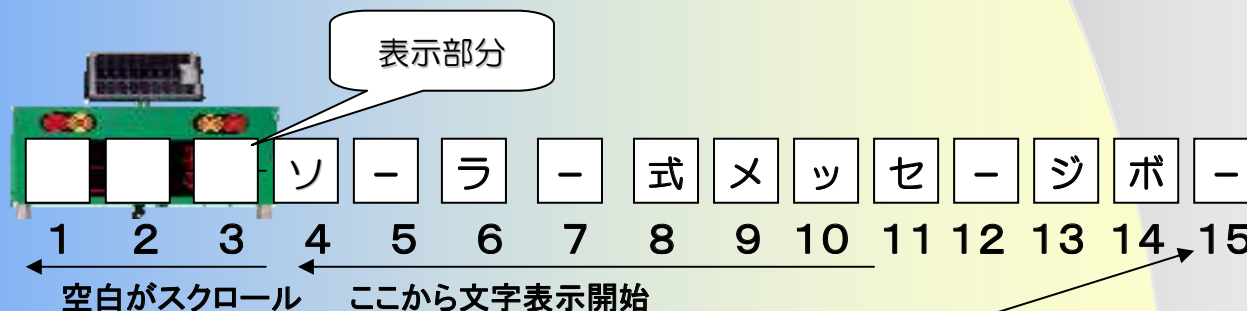


ここに『ソーラー式メッセージボー』
と(全角)入力し、Enterで確定



なぜ？『ソーラー式メッセージボー』としか入力しないの？

一度の入力で15文字までしか入力できません。更に今回は右端から文字が出てくるよう表示する為、一度に入力できる文字は12文字までとなります。今回は全部で20文字ある為、一旦12文字で区切り、表示するからです。



ここまでしか入力出来ないなので区切る

5-8.文字編集例（スクロール表示12文字以上 その3）

- 実際に文字を作成しよう！ 例：『ソーラー式メッセージボードレンタルします』 20文字

- ④  を入れ、各種設定をする。

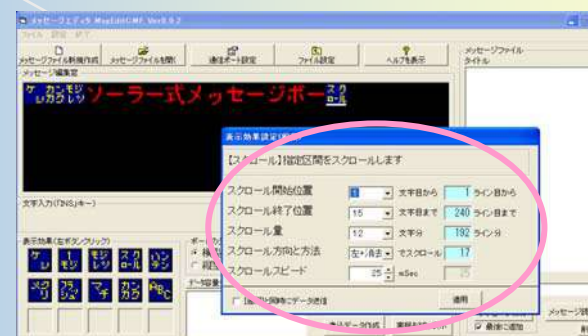
【今回の設定】

- ・開始位置 **1文字目**
- ・終了位置 **15文字目**
- ・量 **12文字分**
- ・方向 **左+消去**
- ・スピード **25mSec**

ポイント

12文字以上の文字を綺麗にスクロールさせるは、
下記の様に文字数を設定してください。

- ・スクロール終了位置
空白3文字+今回入力した文字数
- ・スクロール量
終了位置設定文字数-3文字



表示効果設定(編集)

【スクロール】指定区間をスクロールします

スクロール開始位置	1	文字目から	1	ライン目から
スクロール終了位置	15	文字目まで	240	ライン目まで
スクロール量	12	文字分	192	ライン分
スクロール方向と方法	左+消去	でスクロール	17	
スクロールスピード	25	mSec	25	

☐ [適用]と同時にデータ送信

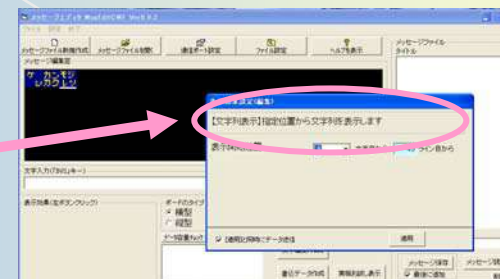
適用

5-9.文字編集例（スクロール表示12文字以上 その4）

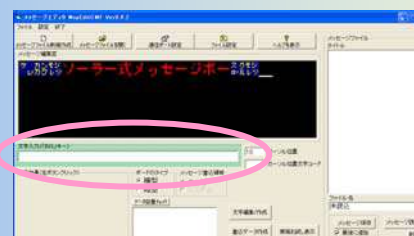
- 実際に文字を作成しよう！ 例：『ソーラー式メッセージボードレンタルします』 20文字

- ⑤  を入れ、残りの文字を入力する。

表示開始位置 『4』文字目から



ここに『ドレンタルします』と（全角）
入力し、Enterで確定



5-10文字編集例（スクロール表示12文字以上 その5）

- 実際に文字を作成しよう！ 例：『ソーラー式メッセージボードレンタルします』 20文字

⑥  を入れ、各種設定をする。

【今回の設定】

- ・開始位置 **1文字目**
- ・終了位置 **11文字目**
- ・量 **11文字分**
- ・方向 **左+消去**
- ・スピード **25mSec**



ポイント

最後の文字まで入力したら、下記の様に文字数を設定してください。

- ・スクロール終了位置
空白3文字+今回入力した文字数
- ・スクロール量
**空白3文字+今回入力した文字数
終了位置と同じ文字数**

表示効果設定(編集)

【スクロール】指定区間をスクロールします

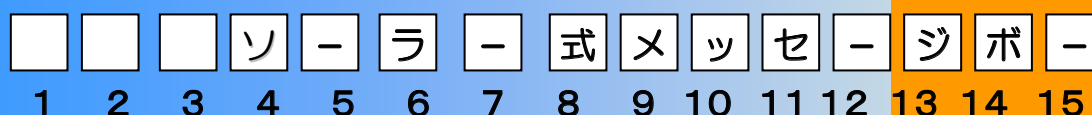
スクロール開始位置	1	文字目から	1	ライン目から
スクロール終了位置	11	文字目まで	176	ライン目まで
スクロール量	11	文字分	176	ライン分
スクロール方向と方法	左+消去	でスクロール	17	
スクロールスピード	25	mSec	25	

☒ [適用と同時にデータ送信] 適用

5-11.文字編集例（スクロール表示12文字以上 その6）

● 文字をつなげるしくみ

A文章



スクロール開始・終了(1文字目～15文字目)

スクロール量(12文字目まで)

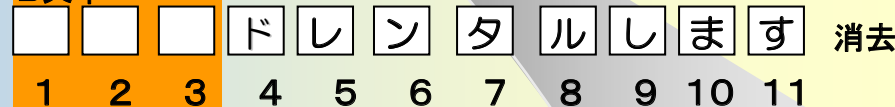
次の動作を行なう間隔
は『0』mSec

① A文章は、スクロール開始・終了が1文字目～15文字目。スクロール量は、12文字目までの設定になっています。このような設定にすると、最後の3文字は、止まって表示します。

② B文章が表示されるまでの間隔は、最初設定したように0秒。すなわち、間隔は無く次の動作に移ります。

③ B文章は、スクロール開始・終了、スクロール量ともに11文字と同じ設定になっています。このような設定にすると、右端から文字が出てくる表示になります。

B文章



スクロール開始・終了(1文字目～11文字目)

スクロール量(11文字目まで)

このようにスクロールを組み合わせる事により、A文章の最後の3文字が止まっている間に、間隔無く、B文章の空白の3文字が入り、あたかもA文章とB文章がくっついたように見えるように表示します。これにより、12文字以上ある文字を表示しているのです。

6.コマンド説明



- ・表示を消す命令です。
開始位置 1～15文字目
終了位置 1～15文字目



- ・1文字だけ表示する命令です。
開始位置 1～15文字目



- ・複数文字を表示する命令です。
開始位置 1～15文字目



- ・表示をスクロールする命令です。
開始位置 1～15文字目
終了位置 1～15文字目
量（何文字スクロールするか）
1～15文字目
方向 左右上下+消去又はロール
スピード 5～255ms



- ・表示を反転表示する命令です
開始位置 1～15文字目
終了位置 1～15文字目



- ・文字をめぐりながら表示する命令です。
開始位置 1～15文字目
終了位置 1～15文字目
表示数（めぐりながら表示する文字数）
1～15文字目
方向 左右上下
スピード 5～255ms



- ・指定区間をワッパ表示する命令です。
開始位置 1～15文字目
終了位置 1～15文字目
ワッパ回数 5～255回
スピード 5～255ms



- ・指定時間だけ表示効果の実行をキープさせる命令です。
待ち時間 50～2550ms



- ・コマンド実行間隔時間を設定する命令です。
間隔時間 0～2550ms



- ・英文字（大文字）を表示する命令です。
開始位置 1～15文字目
上下位置 上、中、下段

7-1.他の編集例

① 『工事中』点滅表示（標準パターン 01）



-  間隔時間 60m s
-  1文字目から
-  開始位置 1文字目
-  終了位置 3文字目

② 『営業中』1文字ずつ表示



-  間隔時間 60m s
-  『営』 1文字目
-  『業』 2文字目
-  『中』 3文字目
-  開始位置 1文字目
-  終了位置 3文字目

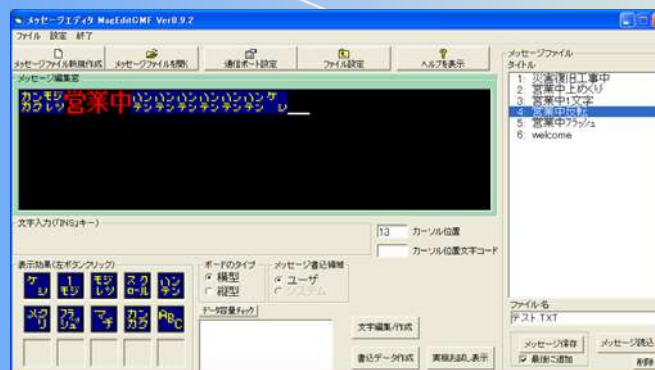
③ 『営業中』上めくり表示



-  間隔時間 60m s
-  1文字目から
-  開始位置 1文字目
-  終了位置 3文字目
-  めくり数 3文字分
-  方向 上
-  スピード 25m s

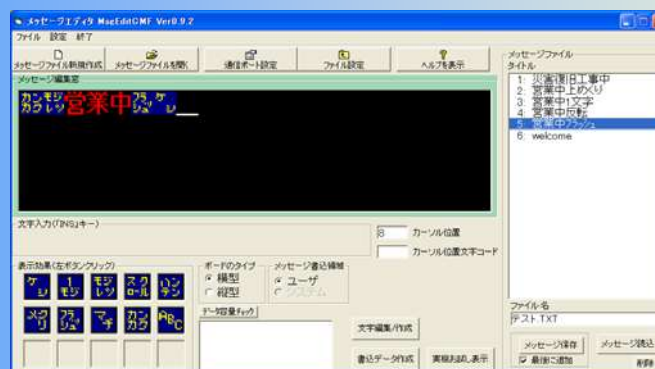
7-2.他の編集例

④ 『営業中』 反転表示



-  間隔時間 60m s
-  1 文字目から
-  ×6 開始位置 1文字目
終了位置 3文字目
-  開始位置 1文字目
終了位置 3文字目

⑤ 『営業中』 フラッシュ表示



-  間隔時間 60m s
-  1 文字目から
-  開始位置 1文字目
終了位置 3文字目
回数 3文字分
スピード 50m s

⑥ 『WELCOME』 を下段に表示



-  間隔時間 60m s
-  開始位置 1文字目
上下表示 下段
-  開始位置 1文字目
終了位置 3文字目

8.実機お試し表示

メッセージ編集が完成したら、お試し表示で確認をしましょう。

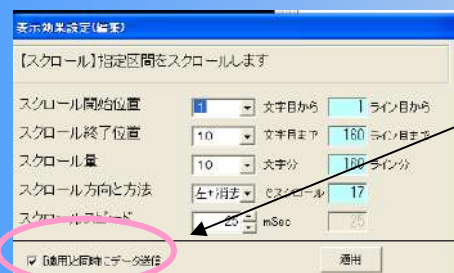
【準備】 パソコンとメッセージボードをRS-232Cケーブルで接続する。
(USBしかない場合は、USB-RS-232C変換ケーブルを使用)



- 『実機お試し表示』のボタンを押すと、メッセージボードに作成した文字が表示されます。

●注意

この時点では、まだメッセージボードに書き込まれていません。



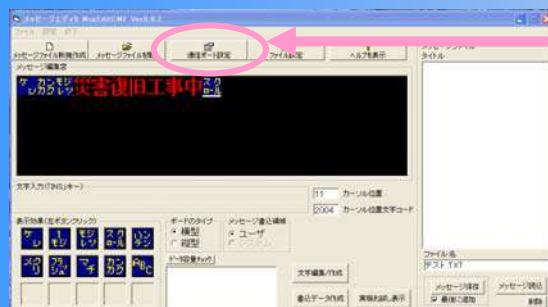
- 『適用と同時にデータ送信』をチェックすると、適用を押すと同時にメッセージボードに作成した文字が表示されます。
設定変更の時に便利です。

ポイント

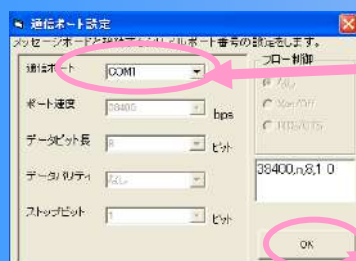
スクロール終了位置、量を1文字ずつ変更し、お試し表示で確認すると、動き方が良く解ります。また、文字の修正等に役立ちます。

9.編集ソフト ポート設定

実機お試し表示が出来なかった場合、ポート設定が違っている可能性があります。
ポート番号を合わせてください。



- 『送信設定』を押し、ポート設定を開きます。



- ポートを設定します。

RS-232C **COM1 (設定によって異なります)**
USBシリアルケーブル パソコンの『コントロールパネル』『システム』『デバイス
マネージャー』にて確認し、設定してください。

- 設定終了後『OK』をクリックすると確定されます。



- 注意

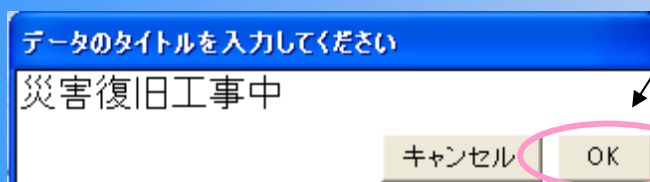
この時点で、このメッセージボードが出た場合は、ポートが存在していません。パソコンの『コントロールパネル』『システム』『デバイスマネージャー』にて確認し、設定してください。

10.編集データの保存

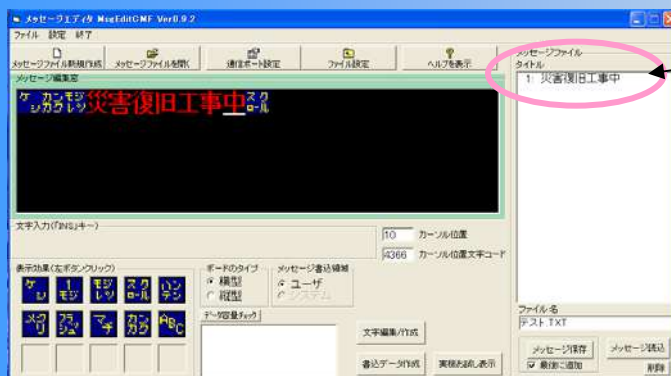
メッセージ編集が完成したら、編集データの保存を行います。



- 『メッセージ保存』のボタンを押すと、タイトルを入力するウィンドウが開きます。



- 適当なタイトルを入れ『OK』を押すと、保存されます。



- ここに入ります

11.書き込みデータに変換

編集したメッセージをメッセージボードに書き込み用のデータに変換します。



- メイン画面の『データ容量チェック』ボタンを押しデータ量のチェックをします。
- 容量がオーバーしたら、メッセージ数を減らしてください。
- 『Ok』になったら、『書き込みデータ作成』ボタンを押します。

- 自動的に書き込み用データファイルが作成されます。
このファイルは、書き込みソフトの『書き込みデータ読み込み』を行なう際、自動的に読み込まれるようになっています。

フォルダ名 “C:\program files\MsgEditCMF\output”

ファイル名 “MSG-PROG.PDT”

12-1 実機に書込み（書込みソフト起動）

編集したメッセージをメッセージボードに書き込みます。



● パソコンのスタートメニューから「スタートメニュー」「プログラム」「CONLUX_CMF」「CMF-330シリーズ FLASH ライター」で起動します。

● 「書き込みデータの読み込み」を押して、先ほど作成した書き込み用データファイルを読み込みます。

● 『開く』をクリック。『読み込み終了』が出たら終了です。



● 『Ok』をクリックし、次に進みます。

- フォルダ名 “¥C: ¥programFiles¥MsgEditCMF¥output”
- ファイル名 “MSG_PROG.PDT”
- ※いずれも、本編集ソフトを、デフォルトのままインストールした場合。

12-2実機に書込み（書込み開始）

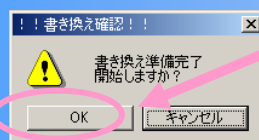
実機



- 「書込み開始」を押して、書込みの注意を読んでからOKを押します。



- メッセージボードの「1の桁のパターン選択スイッチ」を押しながらメッセージボードの電源を入れます。



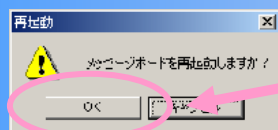
- 通信が正常であると、このメッセージが表示されます。『OK』をクリックすると書込み開始します。

●注意

この時点で、このメッセージボードが出ない場合は、接続の仕方、USBドライバーの未設定及び『送信設定』の通信ポートが違っている場合があります。御確認下さい。



書き込み中



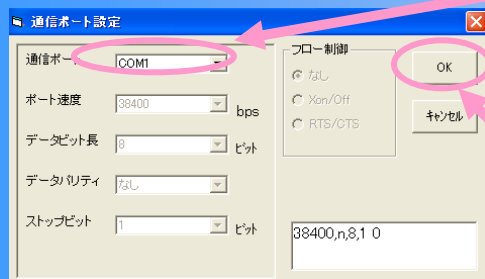
- 書込みが終了すると、このメッセージが表示されますので、『OK』を押してメッセージボードを再起動させます。

13.書き込みソフト ポート設定

書き込みが出来なかった場合、ポート設定が違っている可能性があります。ポートを設定してください。



- 『送信設定』を押し、ポート設定を開きます。



- ポートを設定します。

RS-232C **COM1 (設定によって異なります)**
USBシリアルケーブル パソコンの『コントロールパネル』『システム』『デバイス
 マネージャー』にて確認し、設定してください。

- 設定終了後『OK』をクリックすると確定されます。



●注意

この時点で、このメッセージボードが出た場合は、ポートが存在していません。パソコンの『コントロールパネル』『システム』『デバイスマネージャー』にて確認し、設定してください。

御不明点など御座いましたらご連絡下さい

長野県安曇野市穂高5252番2

TEL 0253-81-0155

URL:<http://www.inform-ex.co.jp>

株式会社インフォメックス松本